

現場でのwevox活用レベル		各レベルの説明	必須要素
レベル0	【wevox導入背景をできていない】 - wevoxの導入背景/用途を理解できていない状態 -	・ 配信しても回答されにくい（回答率が低い）	☐ 配信がされている
レベル1	【wevox導入背景を理解できている】 - サービス概要と自社の導入背景を理解できている状態 -	・ 事務局からサービス概要や導入背景を周知し現場が理解している ・ 事務局/経営のみが結果を閲覧	☐ 現場へのサービス概要や導入背景の周知 ☐ 本取り組みの推進メンバーへの閲覧権限付与 ☐ 事務局/経営が結果を閲覧
レベル2	【事務局の取り組みへの理解ができている】 - 回答結果が会社や組織作りに影響することを実感し、自分たちにとって価値あるものだと思えている状態 -	・ 閲覧権限者が「スコアの見方/捉え方」を理解し、正しくデータを扱えている ※個人特定や評価では使われず、結果への解釈やコメントがされている ・ 事務局やマネージャーが、現場に対しサーベイ結果へのリアクションをしている ・ 現場が、事務局のwevoxを通した取り組みについて、理解している	☐ 閲覧権限者の「スコアの見方/捉え方」の理解 ☐ スコアに関するリアクションを実施 ※結果の解釈を、文章や口頭にてレポートをする
レベル3	【自チームでの運用を開始している】 - 自分たちのチームでwevoxをどのように運用するかについて、自分たちで決められている状態 -	・ 現場版Success Kitをチームで作成し、記載内容での運用を始められている	☐ 現場メンバーへの(最低自チームの)閲覧権限付与 ☐ 現場版Success Kitの作成完了
レベル4	【相互理解における活用ができている】 - wevoxを通して、チームの相互理解の取り組みが加速している状態 -	・ wevoxの点数や対話を通じて、ワークなどの相互理解に関わる取り組みを行っている	☐ チームの相互理解に関する取り組みの実施 ☐ 相互理解の重要性/価値の理解 ☐ 上記の継続
レベル5	【問題解決における活用ができている】 - wevoxを通して、チームの問題解決の取り組みが加速している状態-	・ チームの問題点について、自分たちで話し合えている (KPTやおばけワーク等の対話ツールを利用し、スコアについて話し合えている)	☐ チームの課題の解決に関する取り組みの実施 ☐ チーム内で課題の共通認識を取る重要性の理解 ☐ 上記の継続
レベル6	【理想追求における活用ができている】 - サービス概要wevoxを通して、チームの理想追求の取り組みが加速している状態 -	・ チームの理想像を立て、wevoxを活用しながら自チームの改善活動が行われている	☐ チームの理想像が決められていること ☐ チームの理想像の実現に向かって、エンゲージメント向上サイクルの継続できていること